

研究主題 **学習指導要領を具体化する小・中・高等学校国語科の指導法に関する研究**

—学びの連続性を考慮し、言語活動の充実を図る授業づくり—

【研究担当者】 長根義広 横田昌之

【この研究に対する問い合わせ先】

TEL 0198-27-2735 FAX 0198-27-3562

E-mail kyouka-r@center.iwate-ed.jp

I 主題設定の理由

学習指導要領国語科改訂の趣旨に「実生活で生きてはたらし、各教科等の学習の基本ともなる国語の能力を身に付けることに重点を置いた授業改善を図ること」とあり、具体的な内容として「社会生活に必要とされる発表、討論、解説、論述、鑑賞などを行う能力の育成を重視すること」や「言語活動を通して指導事項を指導すること」など、授業改善の方向性が示されています。

このことについて、全国的に学習指導要領を具体化する授業についての研究や実践が広がりつつあり、県内においても同じような状況にあるものの、その研究や実践が十分であるとは言いきれません。全国的に見られる実践においても、特に、児童生徒の12年間の学びの連続性の意識や、言語活動の充実についての理解に課題がある状況が見られます。そのために、児童生徒は学年が上がるにつれて「国語の授業がよく分かる」や「国語の授業が社会で役立つ」という実感をもてない実態にあります。

このような状況を改善するには、学習指導要領の趣旨を踏まえた授業について、授業構想の理論を明らかにした上で、実践例や授業づくりの手法をまとめ、目指すべき授業像や授業づくりの手法についての理解を広め、国語科の授業改善を推進していく必要があると考えました。

II 研究の目的・目標

小・中・高等学校の児童生徒が「分かった」「できた」「楽しい」「役立つ」という実感を持ちながら、実生活で生きてはたらし各教科の学習の基本ともなる国語の能力を身に付けられるよう、国語科の「日常の授業」の改善を促したいと考えました。そのために、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」それぞれの領域について、12年間の学びの連続性を意識し、単元や本時の授業の進め方について理解できる「授業づくりガイドブック」を作成し、授業実践を通してその理論の有効性を明らかにしました。

III 研究の成果物

研究の成果を、次のように3冊の「授業づくりガイドブック」にまとめることができました。



これらの「授業づくりガイドブック」は、岩手県立総合教育センター教科領域教育担当 Web ページ <http://www1.iwate-ed.jp/tantou/kyouka/new%20index%20kokugo.html> からダウンロードできます。

IV 言語活動の充実を図る授業づくりのための手立て

1 「読むこと」領域における単元の学習過程 (*詳細な説明は、「授業づくりガイドブック」に掲載)

(1) 多読や一冊の本を丸ごと読むことにつながる単元の学習過程

第1次	1	読書目的を設定する
	2	表現モデルを分析する
	3	学習計画を立てる
第2次	4	共通教材を目的と表現を意識して読む
	5	共通教材で表現する
	6	表現について交流する
第3次	7	選択教材で表現する
	8	表現について交流する
	9	単元の学習を振り返る

(2) 一教材文で表現する単元の学習過程

第1次	1	読書目的を設定する
	2	表現モデルを分析する
	3	学習計画を立てる
要	4	目的と表現を意識して読む (*時間配分的には長い)
第3次	5	表現する
	6	表現について交流する
	7	単元の学習を振り返る

(3) 一教材文を表現モデルそのものにとらえる単元の学習過程

第1次	1	読書目的を設定する
	2	学習計画を立てる
要	3	教材文を表現モデルとして読む (*時間配分的には長い)
第3次	4	表現する
	5	表現について交流する
	6	単元の学習を振り返る

■「読むこと」領域における本時の学習過程■

導入	1	単元の学習過程の確認
	2	本時の学習課題の設定
	3	既習内容や本時の学習内容の確認
	4	本時の学習過程の確認
	5	表現モデル・活動モデルの確認
展開	6	課題に沿った読み
	7	考えの交流
	8	読みのまとめ
終末	9	読みの適用
	10	本時の振り返り

本時の学習過程は、単元の学習過程と同様に、固定化したものにとらえるのではなく、本時の指導のねらいに沿って臨機応変に考えることが大切です。上記の学習過程をとった場合でも、**1**～**5**の導入部をできるだけ短くして、展開部の学習活動を保障する必要があります。**6**と**8**は個人での学習を、**7**はペアやグループ、学級全体の交流を想定しています。時間配分的にも内容的にも**7**の段階の充実がポイントとなります。

2 「書くこと」領域における単元の学習過程 (*詳細な説明は、「授業づくりガイドブック」に掲載)

第1次	1	学習課題(目的・相手)を設定する
	2	表現様式上のモデル学習をする
	3	学習計画を立てる
第2次	4	個人課題を選択する
	5	取材する
	6	モデルの構成や表現を分析する
	7	構成を考える
	8	記述する
	9	推敲する
	10	清書する
第3次	11	相互交流する
	12	単元の学習を振り返る

3 「話すこと・聞くこと」領域における単元の学習過程 (*詳細な説明は、「授業づくりガイドブック」に掲載)

(1) 独話の単元の学習過程(スピーチ, アナウンス, プレゼンテーション…)

第1次	1	学習課題(目的・相手)を設定する
	2	表現様式上のモデル学習をする
	3	学習計画を立てる
第2次	4	個人課題を選択する
	5	取材する
	6	モデルの構成や表現を分析する
	7	話題から構成を考えて叙述する
	8	実技練習をする
	9	推敲し, 練り上げる
	10	発表する(聞く)
第3次	11	単元の学習を振り返る

(2) 対話の単元の学習過程(バズセッション, パネルディスカッション, ディベート…)

第1次	1	学習課題(目的・相手)を設定する
	2	表現様式上のモデル学習をする
	3	学習計画を立てる
第2次	4	議題を決め, 進行表を作成する
	5	自分の考えを明確にする
	6	実技1を実施する
	7	実技1を振り返る
	8	実技2を実施する
	9	実技2を振り返る
第3次	10	単元の学習を振り返る

(3) 聞く単元の学習過程（インタビュー、面接・・・）

第1次	1	学習課題（目的・相手）を設定する
	2	表現様式上のモデル学習をする
	3	学習計画を立てる
第2次	4	相手に関する情報を調べる
	5	目的を意識して質問文を作る
	6	質問を構成する
	7	質問する
	8	目的に合わせて質問をまとめる
第3次	9	目的に合わせて発表（交流）する
	10	単元の学習を振り返る

これら単元の学習過程については、「授業づくりガイドブック」で詳しく解説していますが、これらを固定化したものと捉えるのではなく、単元の指導のねらいに沿って臨機応変に考えることが大切です。

■「書くこと」「話すこと・聞くこと」領域における本時の学習過程■

導入	1	単元の学習過程の確認
	2	本時の学習課題の設定
	3	既習内容や本時の学習内容の確認
	4	本時の学習過程の確認
	5	表現モデル・活動モデルの確認
展開	6	個人での学習
	7	グループ・全体での学習
終末	8	個人でのまとめ
	9	本時の振り返り

時間配分的には、導入部と終末部を10分程度に収め、展開部の学習活動の充実を図ることが重要となります。ポイントは、一人一人の学習の充実を図ることです。

V 研究のまとめ

1 研究の成果について

9名の研究協力員の授業実践報告を通して、単元の学習過程や本時の学習過程を工夫して「言語活動の充実を図る授業づくり」をすれば、小・中・高等学校の児童生徒が「分かった」「できた」「楽しい」という実感をもてるような授業づくりができることが分かりました。また、授業実践での観察やワークシート、ノートの記事、作品等を見ると、多くの児童生徒に確かな国語の能力が身に付いていることが伺えました。よって、本研究における授業づくり理論は、児童生徒の国語能力の向上や授業に対する意識変容にプラスに機能することが明らかとなりました。

2 今後の課題について

児童生徒の実感だけでなく、「分かった」「できた」「楽しい」「役立つ」授業とは、どのような授業なのかについて研究を深めることや、確かな国語の能力が身に付いたかどうかを客観的に把握できる評価問題の作成や評価の在り方について研究することなどが今後の課題として残りました。

※ 研究の詳細（「研究報告書」）については、岩手県立総合教育センター教科領域教育担当 Web ページ <http://www1.iwate-ed.jp/tantou/kyouka/new%20index%20kokugo.html> からダウンロードできます。